

令和2年3月30日

研究開発実施完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	〒760-8582 香川県高松市天神前6番1号
管理機関名	香川県教育委員会
代表者名	工代 祐司

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和元年5月16日（契約締結日）～ 令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学校名	香川県立高松北高等学校
学校長名	國木 健司
類型	グローバル型

3 研究開発名

グローバル化に対応した地域デザインを創造する地域創生リーダーの育成

4 研究開発概要

芸術やスポーツの分野をはじめとする地域の課題の解消に向けた地域デザインの構想力・提言力を育み、生徒自らが主体的に地域と連携しながら地域活性化実現の原動力となるとともに、グローバルな視野を持ち多文化共生の地域社会を創造する地域創生リーダーを育成する。

5 教育課程の特例の活用の有無

無

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム	→											
海外交流アドバイザー						→						
地域協働学習実施支援員	→											
運営指導委員会											→	

※カリキュラム開発等専門家の配置：なし

※新型コロナウイルス感染症対策による臨時休校のため3月は未実施

(2) 実績の説明

ア) コンソーシアム

①コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
香川県教育委員会	教育長 工代 祐司
香川県立高松北高等学校	校長 國木 健司
香川県立高松工芸高等学校（連携校）	校長 川井 秀哉
香川大学創造工学部	教授・学部長 長谷川 修一
高松市総務局危機管理課 創造都市推進局 文化・観光・スポーツ部観光交流課	課長 三木 浩史 課長 黒田 秀幸
穴吹学園 穴吹ビジネスカレッジ (株) スクルト	校長 篠原 達司 代表 村上 護郎

②コンソーシアムの活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
平成31年4月1日	コンソーシアムを組織
令和元年6月19日（第1回）	第1回運営協議会 ・実施計画及び研究開発推進方針等について協議し、今後の研究開発推進方針等を決定
令和元年10月25日（第2回）	第2回運営協議会 ・事業経過について報告、研究開発の取り組みや課題を協議 ・1年生中間報告会に対する指導・助言、探究内容の深化に向けた指導方針協議 ・地域との協働の充実策に関する協議 ・研究成果発表会に向けての提言等
令和2年2月14日（第3回）	第3回運営協議会 ・今年度の研究開発の実績と課題について協議 ・1年生研究成果発表会に対する指導・助言、次年度以降の研究開発内容や探究活動の深化に向けた指導方針協議 ・地域との協働の充実策や学校挙げての探究的な学びの充実について協議

イ) 海外交流アドバイザー

①海外交流アドバイザーの構成

氏名	所属・職	雇用形態
楠 晃	名鉄観光サービス (株) 高松支店・営業課長	委嘱 都度謝礼にて対応
吉田 将	名鉄観光サービス (株) 高松支店・スポーツ事業部	
大本 耕造	(株) J T B高松支店・営業第一課長	
阿吹 隆広	(株) J T B高松支店・営業第一課長代理	
曾我部友仁	(株) 日本旅行高松支店・営業課長	
南出 准	(株) アイエスエイ関西支社・法人営業部担当	

②海外交流アドバイザーの活動日程・活動内容

活動日程	海外交流アドバイザー	活動内容
令和元年9月24日	名鉄観光 楠氏 吉田氏	スペインスポーツ・文化研修指導 ・スペインでの探究活動の全体計画説明 ・スポーツによる地域振興策ヒアリングの実施要領指導
令和元年10月10日	名鉄観光 楠氏	スペインスポーツ・文化研修指導 ・スペインでの探究活動等についての指導助言
令和元年10月21日	名鉄観光 楠氏	スペインスポーツ・文化探究活動指導 ・スペインでの探究活動等の詳細日程と実施計画指導
令和元年10月24日	J T B 阿吹氏	台湾グローバル研修指導 ・台湾での研修内容全体計画と探究活動指導
令和元年10月31日	名鉄観光 吉田氏	スペインスポーツ・文化研修指導 ・トレーニング法や戦術に関する探究活動実施要領指導 ・スポーツによる地域振興策ヒアリングの実施要領指導
令和元年11月1日	名鉄観光 吉田氏	スペインスポーツ・文化研修指導 ・トレーニング法や戦術に関する探究活動実施要領指導
令和元年11月6日	J T B 阿吹氏	韓国語学研修指導 ・韓国での探究活動実施要領指導 ・現地の高校生との交流等についての指導助言
令和2年2月28日	アイエスエイ 南出氏	分野別講演会での指導 ・グローバルな視点での地域課題テーマ設定の考え方や探究活動の実施方法に関する指導・助言 ・次年度の探究テーマ設定や活動の充実に関する指導助言

ウ) 地域協働学習実施支援員

①地域協働学習実施支援員の構成

氏名	所属・職	雇用形態
村上 護郎	(株) スクルト代表	委嘱 都度謝礼にて対応
吉川 賢司	(株) スクルト代表代理	

②地域協働学習実施支援員の活動日程・活動内容

日程	内容
令和元年6月19日	第1回運営協議会 (村上氏, 吉川氏) ・実施計画及び研究開発推進方針等について協議し, 今後研究開発推進方針等を決定
令和元年6月21日	1年生「総合的な探究の時間」における講演講師 (村上氏) ・地域デザイン, 探究活動等についての講演を実施
令和元年7月12日	1年生「総合的な探究の時間」における指導・助言 (吉川氏) ・現地研修・フィールドワーク計画立案に際しての指導・助言を実施

令和元年10月23日	1年生「総合的な探究の時間」におけるクラス内中間報告での指導・助言（吉川氏） ・現地研修・フィールドワークに基づく中間報告内容に対して指導・助言を実施
令和元年10月25日	第2回運営協議会（村上氏・吉川氏） ・事業経過について報告，意見交換 ・1年生中間報告会に参加，生徒に対して指導・助言 ・研究成果発表会に向けての提言等
令和2年2月14日	第3回運営協議会 ・今年度の事業経過についての報告，意見交換 ・1年生研究成果発表会に参加，生徒に対して指導・助言 ・今年度の課題及び次年度への取組等についての意見交換

エ) 運営指導委員会

①運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
堀井 秀之	東京大学名誉教授 (一社)日本社会イノベーション協会代表	学識経験者 イノベーション教育に専門知識を有する
徳田 雅明	香川大学副学長 インターナショナルオフィス オフィス長	国際交流及び学校教育に専門知識を有する
清國 祐二	香川大学教授 地域連携・生涯学習センター センター長	地域連携及び学校教育に専門知識を有する

②運営指導委員会の活動日程・活動内容

今年度の運営指導委員会は、令和2年2月14日に開催した。当日は上表の堀井氏と香川大学インターナショナルオフィス・国際研究支援センター副センター長の野田久尚氏が出席し、1年生研究成果発表会の参観及びコンソーシアム第3回運営協議会での意見交換の後、1年間の成果について協議し、次年度の改善点等が以下のとおり示された。また、参加が叶わなかった方には、別途1年間の取組等を報告した。

- ・地域が若者に寄せる期待を生徒と教員間で共有できているのか
- ・テーマ設定やフィールドワーク等全てのアクションについて、生徒に対して評価規準が示されているのか
- ・生徒の探究活動の内容が思い付きになっているものや、探究活動の成果としての解決策や分析が十分とは言えないものもある。生徒が探究活動を行う際に、良いサンプルを示すことも必要である。

オ) 管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・タブレット端末，プロジェクター型の電子黒板，Wifi ルーター等 ICT 環境の整備を行った。高松北高校には 50 台のタブレット端末を，併設中学校には 105 台のタブレット端末を 11 月に他校に先駆けて整備した。
- ・県下の公立高校の生徒対象に，論理的な思考力やグローバルな視点を養う取組みである「東京イノベーションサマープログラム (TISP)」や，芸術祭の会場や作品をめぐる，テーマについて考え，調査をする「瀬戸内アートサマープログラム (SASP)」に高松北高校の生徒及び教職員の方々に積極的に参加してもらい，そこでの手法や体験を各自の探究活動に生かしている。
- ・第1回香川県高校生探究発表会（令和2年3月7日）を開催予定であったが，新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。高松北高校からの5つの探究分野の代表者による発表を含め，県内13校から生徒がポスター発表を行うとともに，全県立高校から1人以上の教職員の参加を依頼しており，高松北高校の研究成果を広く知らせることができる機会となる予定であった。

②事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・県として，現在この事業を「県立高校魅力化推進事業」の取組みの一つとして位置付けている。中学校での取組みについては，国費を充てられないため，来年度は単県のこの予算で中学校での探究活動やグロー

バル研修に関する取組みに支援し、より充実した中学校の取組みが高校での取組みに生かされるようにしていきたい。

- ③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について
締結していない。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「総合的な探究の時間」における地域基礎探究学習(学年共通実施)	3回	2回	4回	1回 ◆	◆	3回	5回	4回	3回 ◆	4回 ◆	4回	
教科情報「社会と情報」における探究活動に係る情報収集等(クラスごとに実施)	1～2回	2回	4回	2回		2回	4回	3回	3回	2回	2回	

- ◆探究班ごとの現地研修・フィールドワークを実施
※新型コロナウイルス感染症対策による臨時休校のため3月は未実施

(2) 実績の説明

①研究開発の実施体制について

- ・地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

校長・教頭・主幹教諭・教諭7名からなるグローバル委員会を立ち上げ、外部関係機関と連携しながら、年間スケジュールの調整、進捗管理等を行うとともに、必要に応じてカリキュラム等の変更・追加・改善についての研究開発を行った。

特に、各学年団や各教科会とも連携しながら、次年度以降の年間指導計画の作成や教育課程の特例の活用、学校設定教科・科目の必要性の有無等について研究開発を行った。

- ・学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

グローバル委員会の下、主幹教諭・学年主任等により構成される探究委員会を中心に、「総合的な探究の時間」の実施計画、現地研修・フィールドワークの計画及びそのまとめ等について、各学年団職員と協議しながら研究開発を行った。

各学年団（1・2年団）においては、毎週行われる学年団会議において、探究活動の実施状況の確認や各探究グループの進捗状況について確認・調整を行ったほか、中間報告会の実施要領や評価体制・方法、個別のフィールドワークや海外等への研修旅行準備に関する協議や調整を行う等、進捗管理に大きく貢献した。特に、9月からは1年団においてクラスの枠を超えて探究分野ごとに生徒が集まり研究を進める体制に変更することとしていたことから、各グループの探究活動の深化に大きく寄与することとなった。

- ・学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

定期的にグローバル委員会を開催し、研究開発計画の調整、進捗管理、評価方法等についての検討を行っている。3年間を見通した研究開発計画や年間指導計画の作成や進捗状況の管理については、コンソーシアムの中で協議や調整を行ったほか、各探究グループの現状確認や探究成果の検証・評価については、コンソーシアム構成員や海外交流アドバイザーに加え、探究活動に際して連携する関係機関の専門家からも指導・助言を受けている。また、個別の探究グループの評価に係るルーブリックの作成については、甲南女子大学の村川雅弘氏に指導をお願いし、今後研究を進めることとしている。

- ・カリキュラム開発に対するコンソーシアム及び地域協働学習実施支援員の取組について

本校と「育てる人材像」や、地域や学校でどのような学びを展開することがその人材を育てることになるかを共有しながら、中間報告会や成果発表会、あるいは現地研修・フィールドワークの際に、必要な情報提供を行うとともに、専門的知見から探究活動のアドバイザーとして生徒の指導・助言にあたった。これまでの3回の運営協議会において、全体計画の策定や計画の修正等を行った。

また、地域協働連携推進校である高松工芸高校とも連携し、同校教員が年度当初に探究活動の意義や実施要領について教職員への指導助言を行うとともに、同校デザイン科主任による1年生全員への講演会を行った。研究開発中においても進捗状況の指導助言にあたるとともに、年度末の成果発表会に向けて、同校の優れた取組を本校生徒とも共有するため、2月に同校デザイン科課題研究発表会に、本校1年生各探究班の班長(50名)が参観し、探究活動の手法や発表におけるプレゼンテーション等についての理解を深めることができ、本校の成果発表会開催に向けた大きな糧となった。

②研究開発の内容や地域課題研究の内容について

<グローバル化の探究>

グローバル委員会、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員の指導を得ながら、探究テーマの設定や現地研修対象の地の選定、インタビュー・アンケート等の調査手法等を決定した。なお、英語によるインタビュー等の指導については英語科教員がこれを行った。

さらに、海外研修(カナダ、シンガポール、台湾、韓国、スペイン)、外国人留学生、技能実習生、観光客との交流活動等を通して体得したグローバルな視野に基づき、急速にグローバル化が進む地域社会における諸課題に関する探究活動を行い、外国人のための生活環境や外国人観光客のための諸設備設置等を行うための方策等について、その企画や提言方法についてのまとめを行った。

<芸術関係及びスポーツ関係の探究>

グローバル委員会、地域協働学習実施支援員の指導を得ながら、探究テーマの設定や現地研修対象の地を選定や現地研修対象の地の選定、インタビュー・アンケート等の調査手法等を決定した。

瀬戸内国際芸術祭、石あかりロード、地元スポーツチームの試合や各種イベント等での現地研修・ボランティア活動に加え、各運動部や文化部による自主企画のイベント開催等、国内外の様々な人々との交流を通じた探究活動を行いながら、それぞれのイベントの活性化や、地域活性化のための企画や提言方法等についてのまとめを行った。

<防災・環境関係の探究>

グローバル委員会、地域協働学習実施支援員の指導を得ながら、探究テーマの設定や現地研修対象の地を選定や現地研修対象の地の選定、インタビュー・アンケート等の調査手法等を決定した。

行政機関担当課、地域の防災センター、コミュニティセンター、幼稚園等における現地研修、フィールドワークを通じた探究活動を行い、外国人も含めた地域住民のための安心・安全な生活環境を整えるための方策等について、その企画や提言方法についてのまとめを行った。

<看護・医療・福祉関係の探究>

グローバル委員会、地域協働学習実施支援員の指導を得ながら、探究テーマの設定や現地研修対象の地を選定や現地研修対象の地の選定、インタビュー・アンケート等の調査手法等を決定した。

行政機関担当課、県立保健医療大学、穴吹専門学校、各医療・福祉機関における現地研修、フィールドワークを通じた探究活動を行い、外国人も含めた地域住民のための安心・安全な生活環境を整えるための方策等について、その企画や提言方法についてのまとめを行った。

③総合的な学習(探究)の時間と各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組とその成果

1年生に関しては、「総合的な探究の時間」(1単位)及び教科情報「社会と情報」2単位のうちの1単位を研究開発のための情報収集・整理・まとめの時間に充てた。社会と情報については、学習指導要領の内容(1)及び(3)を1単位分の授業時数で指導することとし、内容(2)及び(4)を残る1単位分の時数で指導することとした。研究開発に充てたのは、このうち内容(2)及び(4)の指導時間である。

2年生に関しては、「総合的な学習の時間」(1単位)を研究開発のための情報収集・整理・まとめに充てたが、探究テーマの適切な設定に資するよう学期ごとに担当教諭が各教科に呼びかけ、選択科目の「地理A」、「スポーツⅡ」、「芸術Ⅱ」及び「異文化理解」において、グローバル化に伴う地域課題に関する主題学習を取り扱ったり、特定の地域課題についての対話・討論を中心とした授業を実施することとした。

また、1, 2年生ともに外国語の各科目の授業において、外国人との積極的なコミュニケーションが図れるよう、スピーチやディスカッション、プレゼンテーション等の力を育成する授業を展開している。この取組は、海外研修や探究活動での外国人へのインタビュー等でも実践的な効果が上がっているほか、グローバル化を意識した探究活動への動機付けとしても効果があったものと考えている。ただし、スピーキングテスト等による外国語表現能力の評価が十分に実施できていないため、次年度はこうした評価手法の開発とスピーキング力の育成手法についても研究を行っていきたい。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

ア) グローバル研修

- ・修学旅行（2年次、飛翔コースを除く）

昨年度までの台湾又は北海道の選択参加を改め、シンガポール・マレーシア又は北海道の選択参加とし、令和元年12月に3泊4日を実施。

- ・海外研修：次表の海外研修（希望者対象）を実施した。

研修名	日程	対象者	参加人数	概要
台湾 グローバル研修	令和元年 12月20日(金)～ 22日(日)	高校1年 中学2年	14名 15名 計29名	故宫博物院での異文化探究 学校交流による英語表現力の育成 異文化探究（九份探究、小籠包作り体験）
韓国 語学研修	令和元年 12月23日(月)～ 26日(木)	高校1年	13名	パジュ英語村研修、異文化探究（韓国劇鑑賞、町づくり） 学校交流による英語表現力の育成
スペイン スポーツ・文化研修	令和2年 1月3日(金)～ 9日(木)	高校1年 2年	21名 9名 計30名	スポーツ探究（トレーニング法、選手育成法）、 芸術探究（世界遺産・美術館による地域振興）、 スポーツ等による都市活性化探究

※韓国語学研修は平成30年度より実施。台湾グローバル研修及びスペインスポーツ・文化研修は令和元年度からの新規研修

※2年飛翔コース対象の海外語学研修（カナダ。令和2年度からはアメリカ合衆国）は継続実施

イ) その他の取組

- ・留学生との交流

2年グローバルコースの生徒を対象に、コンソーシアム構成員穴吹ビジネスカレッジ校長の協力や助言を得て、同カレッジ日本語学科の留学生との交流を10月に実施。数カ国の留学生たちと英語での会話やレクリエーション等を行い、異文化理解や英語コミュニケーション能力の向上させることができた。

- ・アジア架け橋プロジェクト

ベトナムからの留学生を受け入れ、2年飛翔コースに2学期から配属。授業や学校行事における生徒との交流に加え、12月にはクラス全員で地域探究活動として愛媛県松山市において地域活性化に関する探究活動を行う等、生徒たちとの交流を深めつつ探究活動の深化にも大きく貢献した。

- ・「トビタテ！留学 JAPAN」

今年度初めて本校から1名の生徒（3年生女子）が同事業に応募し、中米ベリーズにて公衆衛生ボランティア活動に参加した。その成果は、2学期始業式において全校生徒に報告され、海外での体験が自分自身のキャリア形成に大きく役立ったことや、日本や地域の文化や生活環境が優れている点を再認識したこと、諸外国との友好・親善の重要性等が文化祭で発表され、中・高全体でその成果等を共有することができた。

- ・演劇の手法を用いたコミュニケーション能力向上研修（演劇ワークショップ）

探究活動を進める上での意見交換や、探究成果の発表の際にコミュニケーション能力及び表現力を

向上させる取組として、希望者を対象に四国学院大学ノトスタジオにて、同大学西村准教授による演劇の手法を用いたコミュニケーション能力向上研修を開催し、参加者が指導者から与えられたテーマを演じるために協働しながら、コミュニケーション能力や表現力を向上させ、成果発表会等で活かすことができた。

・高松外国人観光客お助け隊

高松外国人観光客お助け隊（コンソーシアム構成員である高松市観光交流課主管）による高松港へ入港したクルーズ船の外国人乗客に対して、本県名物讃岐うどんをふるまったり、観光案内等を行うため、希望者が参加し、外国人乗客やお助け隊のメンバーである大学生たちとも交流を深めることができた。

・運動部による探究活動

ラグビー部が、ラグビーワールドカップ参加のため来日し高知にて合宿中のトンガ代表選手からトレーニング法の指導を受けるとともに、外国人の合宿誘致やスポーツ交流促進による地域振興策についてヒアリングを行った。また、本校ラグビー部OBと協働し、地元小学生対象のラグビー体験イベントの企画・運営に携わり、地域振興を実体験することができた。

また、サッカー部が、プロサッカーチームのファジアーノ岡山を訪問し、トレーニング法スポーツによる地域振興方策に関する聞き取り調査を行い、探究活動を進める上での参考となった。

・文化部による探究活動

応援部及び書道部が四国中央市を訪問し、全国的なイベントに成長した「書道パフォーマンス」について、実行委員会の方に聞き取り調査を行い、全国レベルのイベントの企画・運営に関する調査・研究を行った。また、追手門大学の応援団による地域貢献の実情や各種イベントの企画・運営の現状と課題を、大学職員や大学生から聞き取り調査を行い、応援活動を通じた地域貢献イベントの企画・運営についての理解を深めた。

エ) 教員研修

本校職員の生徒に対する探究学習に係る指導力等向上のため、一般社団法人Glocal Academy 理事長岡本尚也氏を招聘し、「課題研究の全国的な動向と効果的な指導方法」の演題で、課題研究の意義や研究テーマとSDGs, 研究テーマを深めるために、等についての講演をして頂き、探究活動の意義や進め方、生徒に対する指導上の留意点等について、理解を深めることができ、次年度の指導計画作成や指導方法等についての大きな糧となった。

⑤成果の普及方法・実績について

1,2年生ともに、専門家を招いた講演会や成果発表会の様子、現地での研修やヒアリングの様子等について、学校のウェブサイトで公表したほか、地域と連携したイベントやボランティア活動についても可能な限り報道提供を行った。各学年の関係者や他校の担当者等への公開・普及については次のとおりである。

1年生：中間報告会(10月実施)において全ての探究班が分野ごとに現地研修・フィールドワークの成果等についての発表を行い、地域協働学習実施支援員も含めたコンソーシアム構成員からの指導助言も含めた探究成果や課題等についての理解と共有を深めた。さらに、研究成果発表会(2月実施)においてもコンソーシアム構成員から、今年度の探究活動の課題や次年度からの新たな探究活動の進め方等についての指導助言を得ることができた。この成果発表会については、県内の各高校に参加を呼びかけ、9校17名の参加を得た。参加者からはテーマ設定の手法や探究活動の実施方法等の質問が寄せられ、活発な討議が行われた。なお、各探究分野の代表5班が、香川県教育委員会主催「香川県高校生探究発表会」(3月7日実施予定、中止)において、本校代表として発表し、本研究開発の成果普及を行い、他校生徒とも探究内容等について交流を深める予定であった。

2年生：各自が行った探究活動の成果をレポートにまとめるとともに、ポスター発表会を11月した。その際、コンソーシアム構成員からの指導助言を得て、探究成果や諸課題等についての理解と共有を深めた。現在、令和2年6月に予定している「探究成果発表会」に向けての準備を進めており、この発表会についても県内各高校や関係機関の職員等を招いて成果の普及・共有や提言・実践の場とし

でも活用したいと考えている。

8 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 目標の進捗状況、成果、評価

国内外でのグローバル研修や留学生との交流、外国人へのインタビュー等で1か国以上の国の外国人と交流した生徒数については、平成30年度の約150名(1,2年生)から、310名に倍増した。特に2年生は在籍234名中190名と81%に達した。これには様々な海外研修や、アジア架け橋プロジェクトで受け入れている外国人留学生との交流が多く含まれているが、これらの生徒は様々な活動において「体感」「対話」「探究」し、グローバルな視点を持ちながら多文化共生の地域社会を創造するための資質・能力を体得し、提言・実行のための具体策を考案している。

成果としては、生徒が自ら様々なイベントやボランティア活動、現地研修、フィールドワーク等に積極的に参加する姿勢が浸透してきたことが挙げられる。また、地元のイベント(石あかりロード)に関しては、運営・通訳ボランティアとして参加した生徒が、このイベントの現状と課題についてまとめ、イベント実行委員会へ改善策等についての提言を行った。

評価としては、1年生の上半期の探究活動や中間報告会における4段階の自己評価で2.7、コンソーシアム構成員による他者評価が2.5であった。他者評価については、課題設定理由、探究方法、プレゼンテーション能力等についての力不足が指摘されたが、年度末の成果発表会に向けての糧となり、これら指摘等を踏まえた発表・まとめを行うことができた。なお、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休校により、生徒に対する1年間の探究活動を通じた自己評価アンケートを実施することができなかったので、具体的な数値の把握はできていない。

(2) 生徒アンケート結果に基づく検証・評価

本研究開発を検証するため、1年生及び2年生を対象に、「グローバル体験及び地域貢献意欲等に関するアンケート」を2月に実施した。

①今年度、海外に行った経験の有無について

海外経験は2年生が圧倒的に多かった。これは本校が企画した修学旅行を含めた海外研修の多くが2年生を対象としたものであることによるが、1年生でも台湾、韓国、スペインの各研修に意欲的に参加し、外国人との交流体験により、グローバルな視点を身に付けることができたと思われる。

②国内の研修旅行や交流行事等の学校行事や部活動等で外国人と交流した経験の有無について

アジア架け橋プロジェクトで受け入れた外国人留学生との交流を経験した生徒は、受け入れたのが2年生であったこともあり2年生の約3割に及んだ。その他の留学生等との交流についても、本校がその機会を設定したことで、生徒がグローバルな視点を身に付け、地域課題を解決しようとする資質や能力の育成に大きく寄与したと考えられる。

③ボランティア活動や本研究開発における外国人へのインタビューやアンケート調査の経験について

1年生は、本研究開発における現地研修において、外国人へのインタビュー等を行った者が約2割である。本研究開発における指導の一環として、積極的な外国人との交流を推奨したことも、この一因と考えられる。逆に2年生は、今年度本県で開催された瀬戸内国際芸術祭や、地元の石あかりロードでのボランティア等でのインタビュー等を経験した者が約1割いた。

①、②、③及び前述のとおり国内外でのグローバル研修や留学生との交流、外国人へのインタビュー等で1か国以上の国の外国人と交流した生徒数については、平成30年度と比較して倍増している。さらに、この生徒へのアンケート調査でボランティア活動や本研究開発に係る探究活動等で外国人にインタビューやアンケート調査を行った経験を有する者を把握したところ、1年生では18名で学年全体の7.8%、平均すると約4か国の外国人へのインタビュー等の経験を有し、最も多い生徒は10か国の外国人へのインタビュー等を行った者がいた。2年生では5名で学年全体の2.1%であり、平均すると3か国の外国人へのインタビュー等の経験を有し、最も多い生徒は5か国の外国人へのインタビュー等を行った者がいた。2年生より1年生の方が多いのは、探究活動の一環で夏季休業中等に現地研修・フィールドワークを実施させた

ことや、外国人と何らかの交流を前提とした探究テーマを設定した者もいたことが挙げられる。しかし、本研究開発を開始する際に設定した「3 か国以上の生徒と交流し、探究活動に生かした生徒数を0人から50人以上にする」という目標には届いておらず、次年度に向けての指導方法等についての検討を行っている。

④本校周辺の地域や香川県を誇りに思うかについて

両方とも「たいへん思う」「少し思う」と回答した生徒は1・2年生ともに過半数を上回るが、香川県を誇りに思っても、学校周辺の地域には魅力を感じていない生徒も一部おり、本研究開発の推進していくことで、グローバルな視野を身に付けていく生徒たちが、地域の魅力にも気付き、地域創生リーダーとしての資質、能力を習得できるような取組が必要であり、そのための検討を行っている。

⑤高校卒業後、どの地域に進学又は就職したいと考えているかについて調査結果について

1年生については令和元年5月にも同様の調査を実施した。5月時点では「わからない」と回答していた者が多くいたが、本研究開発やキャリア教育等による進路意識の明確化に伴い、本県又は本県以外の西日本の進路先を希望する生徒が増加している。

⑥県外に進学しても、卒業後本県に戻ってくる気持ちの有無についての調査結果について

本校の生徒は従来から県内指向の者が多い傾向が見られたが、この調査結果では「必ず戻る」「できれば戻る」と回答した1年生は半数を越えている。一方で、「絶対に戻らない」と回答した生徒もいた。全ての生徒が地元で活躍することを期待するのは無理があるが、本研究開発により、地域の魅力に気付き、自ら地域振興策を立案し、提言・実行できる地域創生リーダーが増えることを期待してやまない。

(3) 「グローバル型」の趣旨に応じた取組みの成果と課題

「総合的な探究の時間」の指導では、探究テーマの設定に際して、生徒が実社会・実生活の中でグローバル化に伴い課題となっていると考えるテーマ、又は今後の更なるグローバル化に伴い地域の振興に寄与できると考えるテーマを設定するよう指導してきた。また、情報収集活動や探究活動に際しては外国人へのインタビューやアンケート調査等、外国人の立場での実態把握を行うように指導してきた。実際に、多くの生徒がグローバル化に伴い深刻化する地域課題や、グローバル化に対応した地域振興・地域活性化の方策、外国人にとっての安心・安全な生活環境対策等、それぞれの分野に応じたテーマを設定している。この点に関しては、基本的な地域理解が不十分であったり、グローバル化と絡めた課題設定が困難であった生徒も少なからず見られたため、1年目から多くを望むことは難しい課題でもある。共通教科・科目における地域課題学習や探究的な学び、様々な場面での外国人との交流や海外文化の体験・研修活動等、教科横断的な探究学習や継続的なグローバル研修を通して計画的に育成していかなければならないものと考えられる。この計画的なグローバル探究力育成計画についても、次年度以降コンソーシアムにおいて協議・検討しながら開発していきたい。

また、3度にわたる海外研修は、主として情報収集活動や探究内容の深化を図るため先進的な取組について情報収集を行うとともに、外国から見た日本の生活環境や習慣の長所や特異さに気付けさせ、多角的に課題を探究する視野を育成するという目的で実施している。実施後の生徒アンケートでは、これらの海外研修はいずれも外国人との直接的な交流や対話により、外国人との交流による充実感や達成感を体感するとともに、自分自身の英語コミュニケーション能力の現状と課題を実感する等の成果をあげているが、情報収集活動や多角的な視野の育成といった面では十分な成果が上がったとは言い難い。例えば、先進事例の調査にはつながったものの、日本や地域における実践にはつながりにくいものであったり、1例のみの情報で探究活動のまとめに直結させようとするもの等である。この点は、事前のテーマ設定や情報収集計画が不十分であったことが主たる原因であろうが、一方で、1回の海外研修のみで過大な成果を求めることの無意味さを証明するものとも言えよう。多角的でより深い探究力の育成には各教科・科目における探究的な学びの積み重ねとともに、外国語をはじめとする異文化学習や各種学校行事等における諸外国人との交流活動、身の回りの小さな課題に気付く体験的な学び等の充実が不可欠になる。これらの様々な取組は今年度の研究開発の中で大幅に増強してきているが、次年度に向けてはよ

り一層の連携と系統化・構造化を目指していきたい。

(4) 各分野の探究活動の成果と課題

今回、探究すべき地域課題に設定したのは、「グローバル化への対応」、「芸術による地域振興」、「スポーツによる地域振興」、「防災・環境対策」及び「看護医療福祉の充実」の5分野である。1年生は年度当初からこれらの分野を前提にテーマ設定を行うよう指導したが、2年生については枠をはめることなくテーマ設定を行わせた。結果的に、2年生も9割以上の生徒がこの5分野に関するテーマ設定を行っており、地域の課題としての認識が広く一般的になっていることが証明された。

上述のとおり、いずれのテーマもグローバル化を意識した対策やグローバル化に伴う課題等、グローバル事業の趣旨に沿ったテーマ設定や探究活動を指導しており、多くの班では未熟ながらもその方針で情報収集と研究を進めている。1年生に関しては視野が狭く内容的にも浅いものがほとんどであり、提言に値するものは極めて少ない。2年生については、約半年間の探究活動であったにもかかわらず、より現実的な対策や地域活性化策につなげたものもあり、来年度当初には関係機関に提言していく機会を設けたいと考えている。

提言から実践にまでつなげた探究例には、1年生が行った「石あかりロードについて」の探究活動がある。世界的にも著名な地元の庵治石をPRするための地域の伝統行事である「石あかりロード」について、来場者へのインタビューや実行委員会の方々へのヒアリング、デザイン会社との交渉等主体的に対話と探究を進め、その魅力づくりの方策を実行委員会に提言した。その意欲と内容が認められ、次年度から実行委員会の一員として魅力あるイベントづくりの一翼を担うこととなった。まさに地域との協働を地で行く活動であり、今後実践と検証を繰り返しながら継続的な地域活性化の取組につなげていくことが期待できる。

(5) 研究開発体制の充実について

総合的な探究の時間と教科情報の学習の中のみでの情報収集・探究活動は限界があることが明らかであった。1年生は9月以降、クラスの枠を外し同じ探究分野の生徒が集まって探究し、それぞれの分野を専門とする教員と担任1名からなる探究委員会が、その分野の指導を行う体制で研究を行ってきた。この指導体制をとることで、その分野の専門家を招いた講演会の開催が容易となり、適宜、地域協働学習実施支援員を招いた協働学習を実施することができた。また、分野別に成果発表会を行うことで、生徒相互の評価だけでなく探究委員会の教員やコンソーシアム構成員による評価も公正かつ適切に行うことができたと考えている。しかしながら、より一層の探究の深化のためには、各分野の探究委員会の指導体制を充実させること、特に、教員数には限界があることから、この探究委員会にいかにか外部人材を取り込んでいくかが重要となる。地域協働学習実施支援員や関係機関の専門家に加えて、関連大学在学中の大学生等を指導員に招く等、指導体制の強化についても研究を進めていきたい。

また、他の教科科目と連携した探究的な学びの深化や外国語の学習における英語コミュニケーション能力の強化・育成、5分野の関わる全ての教員が指導と評価に関わる体制づくりが急務であることも痛感させられた。一方、1年間の取組を経て生徒の変容と探究意欲の高まりに多くの教員は手ごたえを感じており、校内での協働意識は確実に醸成している。探究的な学びの系統化・構造化に向けた校内研究開発体制の充実とカリキュラムマネジメント推進体制の確立をもとに、次年度以降の研究開発を進めていきたい。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	087-832-3750
氏名	上枝美紀子	FAX	087-806-0232
職名	主任指導主事	e-mail	ac6319@pref.kagawa.lg.jp